

平成27年度国際審判員早期育成プロジェクト

栃木県 若林謙作

日時：平成28年1月9日（土）～1月11日（月・祝） 場所：国立代々木競技場第一体育館・競技場会議室

参加者：国際審判員資格の取得に可能性を有する各ブロックの推薦審判員15名

（新規AA級3名、A級2名、新規A級5名、公認5名）

～3日間の研修を振り返って～

今回、国際審判員早期育成プロジェクトに参加し、多くの貴重な経験をしました。講義研修では、国際審判員としての役割やその苦勞を知り、国と国との戦いを担当する責任感の重さを感じました。その反面、海外の審判員やその他多くの関係者との関わりから、自分自身の人としての経験や審判員としての技術の向上が期待できる素晴らしさも感じました。また観戦研修では、国内の頂点を決める試合と、その試合を担当する国内トップレベルの審判員のゲーム運営を身近で感じることができ、今後の自分自身の審判活動の財産となりました。そして、自分もこの場に立ちたいという目標を改めて持つことができました。

本研修を通して、講師の方々から数多くの貴重なお話を聞くことができました。その中で、私が審判員として、また人として今後の活動に生かしていきたいと感じたことが4つあります。そのことについて、以下にまとめていきます。

1 コミュニケーション能力

○語学力

これは国際審判員資格を得るためには、必須条件であると考えます。また、海外の審判員と関わる上で、相手が何を欲しているのかなどの洞察力も同時に必要であるということを知ることができました。さらにコート内やコート外、そしてフォーマルな場面での関わり。それぞれの場面で、異なるコミュニケーション能力が求められていることを知り、自分自身の勉強不足を痛感させられました。

○クルーとして

これは国内外問わず、協力してゲーム運営していく上で必要不可欠である。ゲーム前のミーティングからゲーム中、そしてゲーム後のミーティングまで、コミュニケーションはいたる所で行われる。特にゲーム中については、クルーだけではなく、選手やベンチとも行う必要があり、しかもその是非が円滑なゲーム運営を左右してくる。それを異国の地で異国の人と異国の言葉で行う難しさも改めて認識することができた。

○積極性

研修を通して少し成長したところだと感じている。初日は緊張感や失敗することへの不安などから発言することはできなかったが、自らを鼓舞し、多くの発言をすることができるようになった。また、国際審判員の方々の経験より、海外の審判員の積極性を知ることができた。積極性の無さは自覚していたので、今後の活動でもより意識していきたいと感じた。

2 人間性（信頼される審判員になるために）

○“Good parson is good referee”

多くの国際審判員の方からこの言葉が聞かれた。我々は審判員である以前に一人の人間であるということを知り、改めて認識させられた。そして、そのことが信頼される審判員になるための第一関門であると考えている。

○コート上で

国と国との戦いを担当する時に一番重要なのは、公平性であると知った。その雰囲気を出すためには、その審判員の立ち振る舞いが大切であることも知ることができた。ファールの数やコーチとの関わり方にも国際大会では更に注意が必要であると感じた。また、何が起こるか分からない国際大会では、堂々とそして何事にもぶれない精神力の強さも必要であることを知ることができた。

○コート外で

国際大会の期間中、海外の審判員と共同生活を行うということを知った。そこで必要になるのは気配りであり、相手が何を必要としているのかを感じ取る力であることも知ることができた。それらを普段から心がけることで、コート上でも選手やベンチの意図を感じ取れるのではないかと考える。

3 情報とその収集

○game 前

今までの私が想像していた game 前の情報収集は、プレゲームカンファレンスである。その中で、前の試合の勝敗やキープレイヤーの共有などを行い、これからの試合で起こるであろうことに対応するためのものだと思っていた。しかし、国際審判員はそれだけでは不十分であることが分かった。その他に求められる情報は、開催国（会場）や参加国の現状、参加する審判員、そして国際問題や社会情勢、さらには民族や宗教的なことにまで及ぶと知ることができた。このようなことは普段生活しているだけでは分からないことであり、情報を得るために自ら努力をする必要があると考える。

○game 中

game 中に得られる情報はたくさんあるが、それを得るためのアンテナを持たずには情報は入らないと考える。得点差やファールの数、選手の表情、ベンチの振る舞い、戦術などがその情報源であるが、目配りができないとそのサインを見逃してしまうだろう。また、その得られた情報をパートナーやクルーと共有することもとても重要であると感じた。game 前のプレゲームカンファレンスの時に立てた予想と外れた時の対応や今後のゲーム展開の予測などを共有することにより、円滑なゲーム運営ができるのだと改めて知ることができた。また、それらの変化への対応力も同時に必要であり、人間性に起因するのではないかと考える。

4 環境

○人生設計

私自身上級審判員を目指すにあたり、職場の協力と家族の理解の2つが大きく影響していると感じている。そして、国際審判員になるためには今までとは比べ物にならないほどのそれら2つが必要になることを知った。また、“ライセンスは持つものではなく使うもの”という言葉がとても印象に残っており、来年度から上級として活動していく上でも、改めて人生設計の必要性を感じた。

○感謝

自分が今の活動を行えているのは、職場・家族・その他関係者の方々のお陰であると改めて認識した。職場では平日の職務や休日の部活動など、たくさんの同僚に支えられている。また、家族は精神面や健康面で大きな支えとなっている。さらに、地区の大会期間中にも関わらず自分の審判活動のために不在にし、多大な迷惑をかけているのが現状である。県協会や関東協会、日本協会の方々にも多大なるご支援をいただいていることを実感し、今後の審判活動で少しでも恩返しできればと考えている。

～まとめ～

上記の4つが本研修会で私の中で特に印象深いものでした。このことは国際審判員のみならず、全ての審判員に共通して言えることであると感じました。そして、このことを常に念頭において審判活動に励むことができれば、おのずと信頼される審判になり、ライセンスも変化していくのではないかと考えています。しかし、それは決して簡単なことではなく、さらなる努力が必要不可欠であります。今後の審判活動では、志を高く持つと同時により一層の研鑽を積み、さらなるレベルアップ、ランクアップをしていきます。

最後に今回の研修会参加にあたり、吉田利治委員長をはじめとする日本協会の方々や、推薦いただいた安西郷史関東ブロック長、渡邊整栃木県審判長、そして講師の皆様や開催にあたりお世話になりました総務グループの皆様、さらに参加に際し後押しをいただいた関東ブロック、県内審判員の皆様に心より感謝申し上げます。

以上